はじめに

「協働の時代を創造する」

今や全国的にも相当数の自治体において「行政と市民の協働」が課題とされ、検討成果がリポートになっている。実際のところ、町内会の記録を読んでいると、住民が子どもたちのために海岸から砂を運んで砂場をつくり、行政から廃材を譲ってもらい、遊具をつくって公園を完成させた話や、町内の景観づくりのために住民・商店街が費用を負担して、並木や花壇を作り地域社会のために貢献してきた歴史をみつけることができる。

今日、市民生活が豊かになり、行政サービスがきめ細かにおこなわれるにつれて、いつの間にか公共サービスの充実が行政の責任となってきたといえる。一方、最近の少し変化を感じさせる傾向として、週休２日制が定着し、余暇時間の拡大や生涯学習の機会も増え、何かをしたい、地域社会に役立つことをしたい、実際に取り組んでいるという人々の話題が新聞・テレビあるいは行政の広報誌などで紹介されることも増えている。住み慣れた地域社会で生活することが自然な生き方なら、地域社会のために何かをしようと願う人々も多くなるのは当然である。

さて、協働の多様性は、さまざまな活動を通して姿をみせてきたが、何が協働なのか、なぜ協働なのか、どうすれば協働なのか、をつめて考えたことがあっただろうか？多くの場合、市民参加の促進というテーマの下にスローガン的に各地で実践的取り組みがなされてきた。

協働という使い慣れない用語にこだわると協働以外のアダプトプログラム、市民参加のまちづくりとの違いに悩むことになる。地域社会のさまざまな生活上の問題を行政と住民がそれぞれの責任を果たす上で、協力し、よりベターな解決を実現するという基本線に立ち返り、協働のもつパワーと成果そして協働にかかわることの魅力を考えるきっかけが必要であると思う。

事例集には、実際の取り組みを解説し、どのように行政と市民がかかわっているのかを学ぶことができるように配慮した。今後、さらに新しいアイデアと実践が生まれ、目覚める自治体と市民のエネルギーが「新たな公共」を創造する協働の風へ転化することを期待したい。

協働５０作成検討委員会

委員長　**杉岡　直人**

北星学園大学社会福祉学部　教授

協働５０の構成

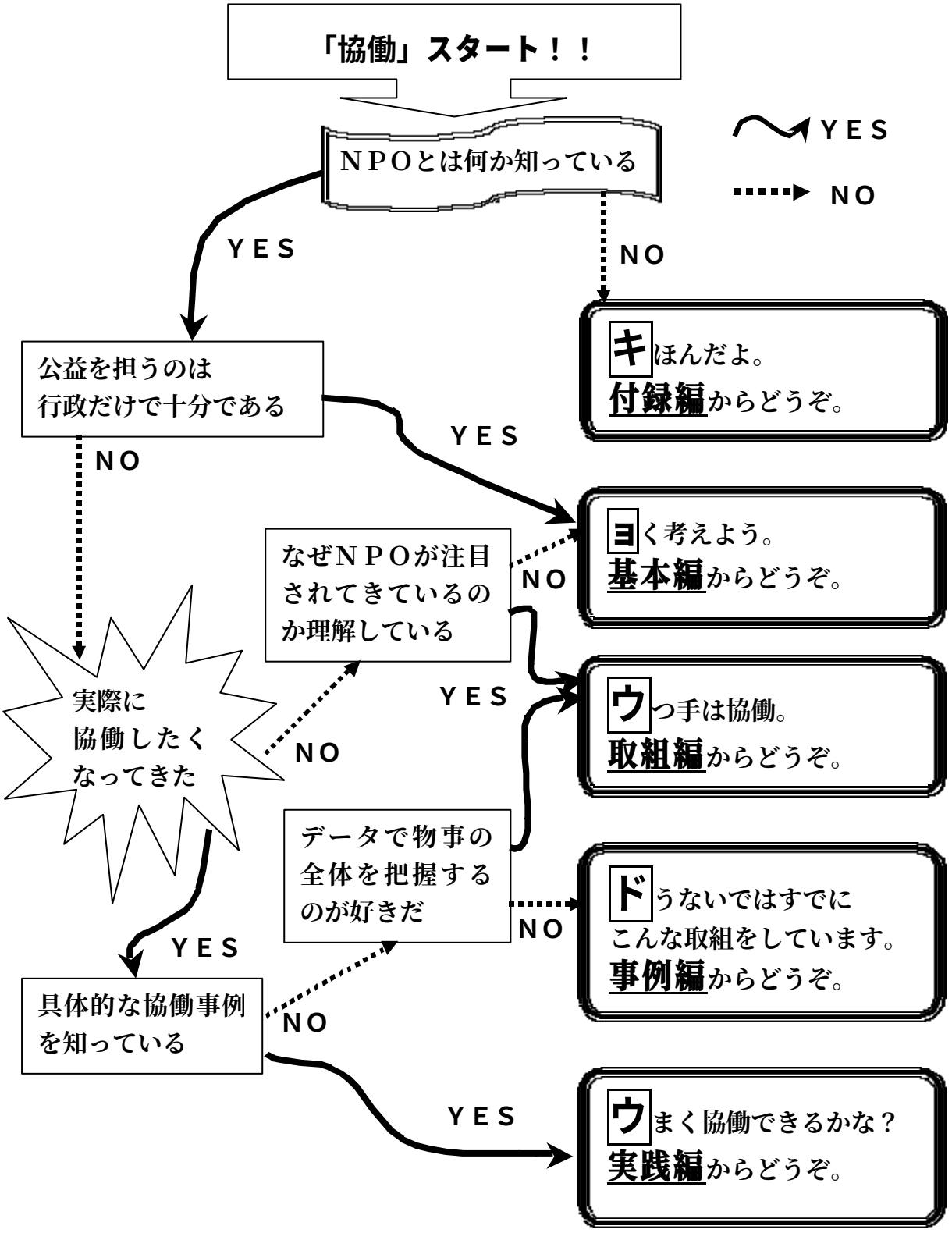
◇協働５０における用語定義	*3p*
この本における基本用語の説明です！	
◇協働５０ フローチャート	*4p*
この本の有効な活用方法がわかります！	
◆総合目次　Ｑ１～Ｑ５０	*5p～9p*
この本で紹介するすべての質問の一覧です！	
◇基本編	*10p～40p*
協働の概念についての疑問にお答えします！	
◇実践編	*41p～79p*
協働の具体的な手法をご紹介します！	
◇取組編	*80p～105p*
協働の現状とその意識、今後の課題をお教えします！	
◇事例編	*106p～141p*
北海道における協働の取組事例を５０も紹介します！	
◇付録編	*142p～163p*
ＮＰＯの基礎知識	*142p～160p*
NPO についての疑問にお答えします！	
用語集	*161p～163p*
この本に出てくる用語の解説です！	
協働 50 作成検討委員会	*164p*
編集後記	*165p*

協働５０における用語定義

市民活動	営利を目的とせず、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とし、自発的かつ継続的に行われる活動のことです。ただし、宗教活動や政治活動を主な目的とする活動は含みません。
ＮＰＯ **(Non-profit-Organization)**	「様々な非営利活動を行う非政府、民間の組織」というアメリカの法人格付与制度や税制に由来する名称です。 日本では、一般的にＮＰＯ法人やボランティア団体を含む市民活動団体をＮＰＯの範囲としていることが多いようです。このハンドブックでもＮＰＯと呼ぶ範囲については、これと同様に扱うこととし、「市民が主体となって、自発的、継続的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない組織の総称」と定義することとします。
協働	主体同士が相互の信頼と理解に立って、共通する一つの目的に向かって協力して働くことです。
ボランティア	自発的に個人の自由な意思で利他的な活動をすることです。
非営利	株式会社のように事業収入から人件費等の経費を差し引いた利益を株主等の構成員に分配する行為を行わないことです。つなり、利潤追求を目的としないことです。 NPO の場合は、自分達の次の活動や独自事業に利益を充てています。
パートナーシップ	それぞれの主体が自己を確立し、相互の認識と理解の上に立って、共通の目的をもち、「対等性」、「公開性」が確保されていることです。
市民	自発的意思と自己責任の下で、地域社会の課題解決に携わり、「助け合い、支え合う地域社会」を築く主体のことです。 例えば、分別ゴミの排出ルールを守ることから、町内会の清掃活動への参加を通じて、あるいはボランティアやＮＰＯ活動に参加するなど様々な形で地域の課題解決に携わる主体となります。

協働５０　フローチャート

下記のフローチャートで、どこから読めばいいのかわかります。
目次は次ページにあります。



協働５０　総合目次

＜基本編＞

◎協働の基礎知識　　～協働って何ですか？ 11
協働の社会学 12
１．なぜ市民と行政との協働が注目されているのでしょうか？ 13
２．なぜＮＰＯと行政とが協働するのですか？ 14
３．協働により期待される効果は何ですか？ 15
◎協働を始める前に 17
４．どんな取組であっても協働しなければならないのでしょうか？ 17
５．協働を始める前に、ＮＰＯが確認すべきポイントは？ 17
６．協働の取組を進める際に相互が守るべきルールとは？ 18
７．ＮＰＯと行政が協働する活動領域とはどのようなものですか？ 20
８．協働による取組の活動領域を考える際に気をつけることは？ 21
９．協働の取組の形態にはどのようなものがありますか？ 22
補助・助成と委託の違いは何ですか？ 27
１０．協働の取組としての委託業務にはどんなものがありますか？ 29
１１．協働はＮＰＯとの癒着につながらないのですか？ 30
１２．協働が進むことで行政運営の方法も変わるのですか？ 31
１３．ＮＰＯ支援とＮＰＯとの協働の違いは？ 31
１４．協働における対等な立場とはどういうことですか？ 32
１５．市民参加をしていれば協働しているといえますか？ 32
１６．協働やＮＰＯについて知るには？ 33
ＮＰＯや協働について聞いてみる 33
協働について読んでみる 34
協働についてネットで調べる 34
ＮＰＯについて聞いてみる 35
ＮＰＯについて読んでみる 36
ＮＰＯについてネットで調べる 37
１７．協働を理解するために研修を受けるには？ 39

＜実践編＞

◎協働の実践方法　　～どうすれば協働できるのでしょうか？ 43
１８．協働相手を見つけるためにはどうしたらよいですか？ 43
行政が協働相手を探すにはどうしたらよいですか？ 43
ＮＰＯが協働相手(行政の担当部署)を探すにはどうしたらよいですか？ 45

１９．協働相手選びや協働の形態など、相談できるところはありますか？ 46
中間支援組織（インターミディアリー）とは？ 46
２０．北海道内の主な中間支援組織にはどのようなところがありますか？ 47
２１．協働を実践する際に留意することは何ですか？ 49
行政が留意すべきこと 49
ＮＰＯが留意すべきこと 50
２２．協働に取り組むための具体的な手続きは？ 52
２３．委託ってどういう仕組みですか？ 52
北海道における委託業務の事業者の選定基準について 53
委託業務における契約事務の手続きの概要 54
委託業務ではどんな名目の経費が計上されますか？ 55
委託業務における締約事務に関する用語解説 56
委託業務の促進に向けて寄せられたアイディア 62
２４．北海道でＮＰＯが利用できる補助制度はありますか？ 64
道内の補助金情報を収集するのに何かよい方法はありますか？ 66
２５．協働事業の情報公開にはどのような手法がありますか？ 66
２６．協働事業による成果物の所有権はどこにありますか？ 68
２７．協働は行政にとって、経費削減になりますか？ 69
◎協働の秘訣～協働を成功させるコツや留意点は？ 70
２８．協働を進めていく上での課題は何ですか？ 70
行政の課題 70
ＮＰＯの課題 70
２９．協働に取り組む際の情報提供とアカウンタビリティ（説明責任） 71
３０．協働の取組を実施している最中に何か問題が発生したときにどう対応するとよいでしょうか？ 71
協働の取組の最中、ボランティアがけがをした場合どうしたらよいか？ 72
３１．協働による取組を評価するポイントや評価手法とは？ 75
ＮＰＯ評価に関する資料 76
３２．協働をスムーズに進める方法は？ 78

＜取組編＞
◎北海道における協働事業の現状～協働の取組の現状はどうなっていますか？ 81
３３．どんな形態の協働が多いのですか？ 82
実際に行われている協働の形態として多かった取組の具体例 83
３４．協働の取組期間はどのくらいですか？ 84
３５．どのような分野の協働が多いですか？ 85
それぞれの分野の具体的事例 85

36．協働の取組内容としては具体的にどのようなものがありますか？ 87
協働の取組内容の具体的事例 87
37．委託形態の協働では、どのような観点から相手先となる団体を選定するのでしょうか？ 88
38．協働に至った経緯や協働の進め方の実態はどうなっていますか？ 90
39．協働の取組に関して、どのように情報公開をしているのですか？ 91
40．協働の取組については、どのような情報公開が有効ですか？ 92
41．協働の取組の効果はどのように検討されていますか？ 93
42．実施した協働の取組に対する満足度は？ 94
43．協働の取組における課題は？ 95
44．注目されている協働の分野は？ 96
45．注目されている協働の取組は？ 97
◎道における協働を推進するための取組 98
46．道ではどのような取組をしていますか？ 98
47．ボランティア休暇はどう活用されていますか？ 99
48．公務員がＮＰＯ法人の社員や役員になれるでしょうか？ 101
49．協働に、積極的に取り組んでいる自治体はありますか？ 102
50．協働を理解するにはどうすればよいですか？ 104
行政が市民活動や協働を理解するためにはどうすればよいですか？ 104
市民が協働を理解するにはどうすればよいですか？ 104
ＮＰＯと行政の違いは？ 104

☆コラム　☆
アダプト・プログラムとは？ 23
実行委員会と協議会の違いは何ですか？ 24
補助と助成の違いは？ 26
契約書類あれこれ 28
研修のための講師を探すには？ 40
委員会を設置する委託業務とは？ 58
ＮＰＯへの委託事業を推進するための仕組み　道外事例 59
ＮＰＯへの委託業務を充実するためのアイディアは？ 61
協働体験談 73
ファシリテーターとは？ 79
ＮＰＯが協働の取組を行政に提案する際に手がかりになるものは？ 89
『ＮＰＯ体験研修事例』(北海道) 100
『ＮＰＯ法人への派遣研修事例』(北海道) 100

＜事例編＞

１．アイスキャンドル普及事業「アイスキャンドル冬物語 in 琴似」 109
２．阿寒町花いっぱい運動(ボランティア・サポート・プログラム) 109
３．有珠山ガイド事業(噴火被災者による噴火遺跡や被災体験の解説) 110
４．ＮＰＯ起業科 110
５．ＮＰＯバンクへの支援事業 111
６．小樽雪あかりの路 111
７．環境教育事業(上士幌町) 112
８．環境教育事業(鹿追町) 112
９．管内乗馬施設を連携させた観光振興事業 113
10．木古内町第５次振興計画の素案づくり 113
11．釧路湿原の自然再生「達古武沼周辺域森林再生事業」 114
12．屈斜路湖岸の露天風呂の管理委託 114
13．黒松内ぶなの森自然学校の運営 115
14．芸術文化鑑賞事業 115
15．高校交換留学生事業・少年少女親善訪問事業 116
16．札幌市市民情報センターの運営 116
17．産業クラスターによる社会環境整備・地区再生創造事業 117
18．自然体験施設「ところ昆虫の家」管理運営 117
19．市民活動地域交流会の開催 118
20．生涯学習のまちづくりフェスティバル 118
21．障害者乗馬普及啓発事業 119
22．障害者対象のＩＴ講習会 119
23．尻別川のルールづくり、森づくり事業 120
24．地域通貨「クリン」の普及推進 120
25．地域通貨導入支援事業(地域通貨ふれ愛デー２００２in 旭川) 121
26．町施設の「まちの駅」管理委託事業 121
27．第２次釧路市障害者福祉計画策定活動 122
28．ＤＶに対するシェルターの運営 122
29．天塩川流域懇談会 123
30．東京農業大学市民講座の運営 123
31．道職員新採用職員研修に係る体験研修の実施 124
32．道民チャレンジ２１世紀ファンド情報運営管理 124
33．西区アダプト・プログラム事業 125
34．ヌップク川グラウンドワークによる河岸保護 125
35．登別市ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」 126
36．花²ネットワーク(ボランティア・サポートプログラム) 126
37．バリアフリー観光促進モデル事業 127
38．バリアフリーの宿泊施設(北海道でてこいランド)管理運営 127
39．平岡公園の保全及び管理運営 128
40．富良野演劇工場の管理運営 128
41．北海道Ｅボート大会 129
42．北海道遺産・コンクリートアーチ橋梁群でまちづくり 129
43．北海道環境の村事業 130
44．北海道情報化人材バンク運営事業 130
45．真駒内川河川整備計画 131
46．やきもの市 131
47．海と森づくり総合対策事業(21 世紀の海を守る森づくり推進事業) 132
48．ＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭り 132
49．リバースクール「千歳川・かわ塾」の運営 133
50．若者への技術伝承 133
北海道協働事例マップ 134
索引 135

＜付録編＞
◎ＮＰＯの基礎知識 143
１．市民活動とＮＰＯとは？ 143
ＮＰＯの定義 143
ＮＰＯに含まれる団体の種類 144
ＮＰＯの概念図 144
２．ＮＰＯの特徴は？ 145
ＮＰＯの特性 145
ＮＰＯの課題 146
営利組織とはどこが違うの？ 147
ＮＧＯとは何が違うの？ 147
今まで行われていた町内会活動とはどう違うの？ 147
３．ＮＰＯはどんな活動をしているのですか？ 148
広がるＮＰＯの活動分野 149
４．ＮＰＯの財源にはどのようなものがありますか？ 150
資金源の性格 151
５．ボランティア活動とＮＰＯ（法人）活動はどう違うのですか？ 152
６．無償性と非営利性とはどう違いますか？ 153
７．ＮＰＯ法とはどういう法律ですか？ 154
ＮＰＯ法の目的とその経緯は？ 154
ＮＰＯ法人になるための要件とは？ 155
どういう手続きをすればＮＰＯ法人になれるのでしょうか？ 155
ＮＰＯ法人設立までの流れは？ 156
内閣府認証と都道府県認証とは、何が違うの？ 157
ＮＰＯ法人格取得に伴い求められることは？ 157
所轄庁によるＮＰＯ法人への監督は？ 157
８．ＮＰＯの法人化にはどんなメリットとデメリットがありますか？ 158
９．公益とは？ 159
１０．ＮＰＯ法人に関する情報 160
ＮＰＯに関する情報 160
ＮＰＯ法人の認証数はどのくらい？ 160
北海道のＮＰＯ法人の認証数はどのくらい？ 160

☆コラム　☆
アドボカシーって何？ 149
ＮＰＯ法における社員とは？ 155
ＮＰＯ法人は社会的に信用できるのでしょうか？ 159

用語集 161
協働５０検討委員会 164
編集後記 165